



World Supersport Championship
round - 7 Czech Automotodrom Brno June 10
予選 12 番手 決勝 13 位

スーパースポーツ世界選手権（WSS）第7戦がチェコのブルノサーキットで開催されました。大久保光にとっては、初めて走るサーキットでした。ライバル勢は、事前テストがありましたが、大久保のチームは参加しなかったため、レースウィークの限られた時間で攻略を考えなければなりませんでした。それでも、初日の走行の21番手から、SP1でタイムアップしスーパーPole進出を決めます。大久保は予選12番手を獲得しました。

決勝は晴れましたが、不安定な天候を読むのは難しく、レースの進行について、路面温度が上がって行くのか、下がって行くのかで、タイヤ選択に悩むことになります。大久保は路面温度が上がらない方に賭け、前後ともハード目のタイヤを選択しました。ですが、路面温度は上昇し、タイヤのライフを持たせることが難しくグリップ不足に苦しみながらの戦いになりました。我慢の走りを貫き最終的に13位でチェックマークを受け、ポイントを得ました。

昨年までは、スーパーPoleに残ることが、課題もありました。今年は、7戦連続でスーパーPoleに残っていることを考えても、ライダースキルの上昇は、明らかです。思うような結果は残っていませんが、大久保は自信を失うことなく、更にマシンの理解度を深めて、まずは、目標である表彰台に届くように努力を続けます。

大久保光

「ブルノは日本のサーキットにはないレイアウトのコースで、コース幅が広く、アップダウンが激しく、攻略は難しいサーキットでした。事前テストもなく、ぶつけ本番のトライでしたが、スーパーPoleに残ることが出来ました。レースウィークの短い時間で、思うようにマシンセットが仕上げることが出来ず、不安定な天候もあり、路面状況の判断が難しく、タイヤ選択を悩むことになりました。ハード目を選んで、前に出て行こうしたのですが、路面温度が上がり、辛いレースになりました。それでも13位でチェックマークを受け、ポイントを獲得出来たことを嬉しく思っています。今年は、チェックマークを受けることが出来ないレースが続いていたので…。調子は上向いていることは実感しています。更に、マシンの理解を深めるためにカワサキマシンの特性を知るべく乗り込めるようなトレーニングがしたいと思っています。」

今年も大久保は、7月29日決勝の鈴鹿8時間耐久に参戦することが決まりましたことを報告させて頂きます。高橋英倫監督率いる「アーミーガール。チームMF&カワサキ」から、アメリカ人のアンドリュー・リーと全日本ロードレース選手権ST600クラスに参戦している奥田教介と参戦します。高橋監督は「カワサキの若手ライダーを起用してカワサキZX-10RRで市販車クラスのSSTクラス優勝を目指す」と目標を定めています。

※次回は、イタリアのレポートをお送り致します。

Kawasaki

